

現 在開催中の企画展示「山脇百合子の仕事部屋」展に合わせて、図書室では山脇さんが美術館のために描いてくださったイラストや手作りのペーパークラフトを元にポストカードとレターセットを作りました。日頃から手紙やハガキをよく書かれていた山脇さんは、受け取った手紙やハガキを「借金」と呼び、少しでも早く「返済（返信）しなくちゃ!」といつも話されていたそうです。海外の方と長く文通を続けると同時に、家から歩いてすぐのご近所さんともハガキのやり取りをされていました。

また、山脇さんの絵そのものを楽しめる複製画の販売も始めました。6種ある絵柄は全て、山脇さんご自身が仕事部屋に飾るために描いたものです。女の子や犬、子猫など、何とも愛らしく、いつまでも見ていたくなります。

誰かに手紙を送ったり、気に入った絵を飾ったりするのは、日々の楽しみのひとつだと思います。ポストカードや複製画の中から、お気に入りの一枚を見つけていただけたら何よりです。



季刊**トライホークス** 2026年 | 82号

発行日……2026年3月3日 | 発行人……中島清文

発行所……(公財)徳間記念アニメーション文化財団

東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館

編集……石光紀子 小泉奈里子 | デザイン……川島弘世

印刷……TOPPANクロレ株式会社 | 非売品

||| 本棚より |||

トライホークスのおすすめの本を紹介しています。
トライホークスの本棚の一冊から、みなさんの本棚の一冊にいただけたら嬉しいです。

人は何で生きるか

ある冬の日、靴屋は雪の中で一人の男を見つけ、見て見ぬふりができず家に連れて帰ります。靴屋のおかみさんも最初は渋っていたものの、なけなしの食料を男に出してあげました。実はこの男は、罰を受け地上に降りた天使で、神様から3つの問い「人の中には何があるか」「人に与えられていないものは何か」「人は何によって生きるか」を与えられていたのです。

ロシアの文豪トルストイは『戦争と平和』や『アンナ・カレーニナ』など長編作品の他、子どもたちのためのお話も書いています。「すべての人が自由にものを考え、思索をすることができるようになるためには、まず、農民大衆の教育から始めなければならない」こう考えたトルストイは農民の子どもたちのための教科書を作り、さらに「民衆自身の言葉で、民衆自身の表現で、単純に、簡素に、わかり易く」書くことを目指し、このお話を含む多くの民話が生れました。

この短いお話は愛について語っています。人は食べ物がないと生きていけないが、それと同時に愛がないと生きていけない、生きている全ての人々にとって大切なもの、それが愛であると、私たちにわかりやすく語ってくれています。中川李枝子さん、山脇百合子さんにとって、トルストイは特別な存在だったそうです。「今にも通じるお話」と語られていましたが、人の本質、核のようなものが描かれている作品は、歳月をものともせずこれからも読まれていくのだと思います。人が生きていく上で大切なことは何か、神様の3つの問いをみなさんはどう考えるでしょうか。



**人は
何で生きるか**
作…レフ・トルストイ
訳…北御門二郎
あすなろ書房
1,320円

野口 絵美

Emi Noguchi

夢中になって読んだ本

翻訳家の野口絵美さんに本を紹介していただきました。選ばれた本は、児童文学からシェイクスピア、SFまで幅広く、図書室のラインナップを広げていただきました。『すももの夏』『大魔法使いクレストマンシー 魔法使いはだれだ』など、野口さんが訳された本とともに、図書室で新たな物語と出会っていただけたら嬉しく思います。

* * * * *

子どものころから、「もっと活字を!」という欲望に突き動かされていました。手近に本がなく、禁断症状に襲われた時には、電車内の広告でも、薬の説明書でも、なんなら教科書でもかまわず読みました。実は、教科書は意外と面白いのです。授業中やテスト勉強だとあんなにつまらなく感じるのに、だれにも強制されず読んでみると、さすがにしっかりと必要なことを必要なだけ説明してくれていて、わかりやすいのです。あくまでヒマつぶしで、勉強しようと思わないのが秘訣。何年か前の教科書から読むのがおすすめです。一度習ったことなので、ふんふんと気軽に読めるし、それでいて新しい発見がたくさんあります。

が、まあそれは非常事態で、できれば楽しい小説が読みたいです。小学校の図書館では、一日3冊本が借りられました。ほとんど毎日3冊借りて、待ちきれず帰り道に読み読み歩くこともありました（今では危なくて絶対にできませんよね）。読み終わってしまうと姉たちや両親の本にも手をのばしました。小説以外にもハウツー本や、シェイクスピアの戯曲『お気に召すまま』『夏の夜の夢』なども、舞台というものを観たことがないのに読みました。セリフばかりで案外読みやすかったです（その影響が後年うっかり劇団に入っていました）。大人の本を、当時ちゃんと理解できていたとは思えません。わからない漢字も、調べずに読んでいました。だから「鼓舞」を「こまい」とか、「詳細」を「せんさい」なんて思いこんでいました。

前置きが長くなりましたが、読書欲に取り憑かっていたわりには、読んだものはほとんど身にな

っていません。取り込んでいくそばからどんどん忘れてしまうのです。残るのは、「ああ面白かった」「もっと読みたい」という気持ちだけ。それでも、ケストナーの『ふたりのロッテ』や『飛ぶ教室』が面白かったのは覚えています。

はっきりと、自分の考え方に影響を与えた本を意識したのは中学から高校にかけてでした。中学に入ってから引越して、初めて自分の部屋ができ、自分の本棚を持ったことも大きいかもれません。家族共通の本棚からお気に入りだけを集め、新たに買った本も並べてみると、童話集、児童文学、SFにファンタジーばかりでした（ミステリーも読みましたが、それは姉の本棚に）。

児童文学で特に印象に残っているのは『床下の小人たち』。スタジオジブリの映画「借りぐらしのアリエッティ」の原作ですね。うっかり者の私はいろんなものをなくしてしまうので、糸巻きやピンが小人たちに有効利用されていたと知ってとても嬉しかったです。

それから「プリデイン物語」。ウェールズの伝説を下敷きにしながら、アメリカ的なフレッシュさを感じさせてくれたお気に入りのシリーズでした。自分が何者でもないことに悩むタランに、じゃあ、とコルが「豚飼育補佐」の肩書きをくれるところが好きです。

そして、SFというのは一般的にはサイエンス・フィクション（空想科学小説）の略ですが、スペキュレティブ・フィクション（思弁小説）と呼ばれることもあります。私の敬愛するSF作家、ロバート・A・ハインラインが好んで使った言い方です。「What if~?（もし~だったらどうなる

だろう)」を追求する小説のことです。「もしもタイムトラベルができたなら?」「もしも妖精が友達だったら?」「もしもゾンビが襲ってきたら?」そう、この定義だと、科学小説もファンタジーもホラーも、全部SFになり得るんです。ただし、その「もしも」をとことん追求していれば、私の一番の好物は、このタイプのSFのようでした。

ハインラインはジュブナイル、今でいうヤングアダルト向けのSFもたくさん書いています。いずれも傑作です。中でも『銀河市民』は何度読んだかわかりません。銀河の果てで奴隷として売られていた少年ソービーが、「食食」のバスリムに買われ、育てられます。バスリムには裏の仕事があり、そのせいで処刑されてしまいます。ソービーは宇宙商人の宇宙船に逃げこみ、バスリムの伝言を伝えます。商人たちはバスリムへの恩を返すためソービーを養子として迎えました。宇宙商人には、独自の文化や風習があります。とまどいながらも馴染み、成長していくソービー。その後も数奇な運命に導かれ、やがて自分の出生の秘密にたどり着きます……。わくわくする冒険物語であるのはもちろん、文化や立場によって人の考え方は変わるんだ、と教えてくれた一冊です。

その他ハインラインの『スターマン・ジョーンズ』『ルナ・ゲートの彼方』なども、今でも面白く読んでもらえると思います。『スターマン・ジョーンズ』は、ギルドが職業選択の権利を握っている未来に、父のあとを継いで宇宙船乗りになろうとする農家の少年が、困難に負けず夢をかなえ

ていくお話です。『ルナ・ゲートの彼方』は、いわばSF版「十五少年漂流記」。高校のサバイバルテストで恒星間ゲートの向こうに飛ばされる少年たち。でも回収の日が来てもゲートは開かず……。結末近くの鬱展開を乗り越えられれば、きっと人生に役立つ勇気をもらえるはずですよ。

また、大人向けではあるのですが、『月は無慈悲な夜の女王』も手に取っていただけたら嬉しいです。私が読んだ中でもダントツで魅力的な人工知能(AI)、マイクが大活躍します。流刑地として発展してきた月世界ですが、二世、三世の時代になっても未だに搾取を続ける地球に対し、いよいよ月世界人たちが立ち上がります。賢くも無邪気なコンピューター。月世界人ならではの考え方。大好きです。

のぐちえみ

横浜生まれ。東京女子医科大学中退。早稲田大学第一文学部卒業。翻訳家。元新劇女優であり、劇団テアトル・エコーに40年在籍した。児童文学の翻訳に『大魔法使いクレストマンシー 魔法使いはだれだ』『同 トニーノの歌う魔法』『すももの夏』『荒野にヒバリをさがして』(以上徳間書店)、絵本の翻訳に『王さまライオンのケーキ』『まよなかの魔女たち』(以上徳間書店)などがある。

トライホークスの本

すももの夏

作…ルーマー・ゴッデン
訳…野口絵美
徳間書店 重版未定



プリディン物語I
タランと角の王
作…ロイド・アリグザンダー
訳…神宮輝夫
評論社 1,980円
◇プリディン物語(全5巻)



銀河市民
作…ロバート・A・ハインライン
訳…野田昌宏
ハヤカワ文庫 重版未定



月は無慈悲な夜の女王
作…ロバート・A・ハインライン
訳…矢野徹
ハヤカワ文庫 1,760円

- ◆お気に召すまま
作…シェイクスピア 訳…阿部知二 岩波文庫 重版未定
- ◆夏の夜の夢
作…シェイクスピア 訳…土居光知 岩波文庫 重版未定
- ◆ふたりのロッテ*
作…エーリヒ・ケストナー 訳…池田香代子
岩波少年文庫 847円
- ◆飛ぶ教室*
作…エーリヒ・ケストナー 訳…池田香代子
岩波少年文庫 869円
- ◆床下の小人たち
作…メアリー・ノートン 訳…林 容吉
岩波少年文庫 913円
- ◆スターマン・ジョーンズ
作…ロバート・A・ハインライン 訳…矢野 徹
ハヤカワ文庫 重版未定
- ◆ルナ・ゲートの彼方
作…ロバート・A・ハインライン 訳…森下弓子
創元SF文庫 880円

* 印の書籍は、野口さんが選んだ書籍タイトルをもとに、現在入手できる本を編集が選びました。



2つの本棚より

読 書家だった山脇百合子さんの仕事部屋には、たくさん本が並んでいます。絵本、児童書、小説、画集、写真集などジャンルも多種多様です。その中から、山脇さんの本棚にも、トライホークスの本棚にもある本を紹介したいと思います。オリヴィエ少年の物語3部作『ラバ通りの人びと』『三つのミント・キャンディー』『ソグのひとと夏』です。作者ロベール・サバティエの自伝的小説といわれ、マルセル・パニョル著の「少年時代」シリーズと並べて、少年の成長がみずみずしく描かれた物語として語られることの多い作品です。

この本は1995年に福音館書店の日曜日文庫として出版された後、福音館文庫にレーベルを変え、今は残念ながら重版未定となっています。フランス語が堪能な山脇さんが原書でこの物語を読み、編集者に「こんな本があるのだけれど、翻訳本として出版されてはどうかしら」と紹介したことがきっかけで世に出た本です。

ロベール・サバティエは、フランスの小説家、詩人であり、文芸評論家でもあります。すでに作家として名をなしていた45歳の時に、自らの幼年時代を元にこの作品を書き始めました。原書は幼年期から大人になるまでを全8巻で描いていますが、日本では思春期までの内容を3巻にまとめた形で出版されています。第1巻の原題は『スウェーデン・マッチ』。戦前のフランスにおいて安全マッチを指す呼び名がタイトルとなっていました。日本では馴染みがなく、内容を想像しにくいいため、新たなタイトルがつけられました。表紙には画家・茂田井武の絵が用いられ、各巻末には充実した解説が掲載されています。物語は、1930年代のパリ北部・モンマルトルにある“ラバ通り”を舞台に始まりますが、解説によって作者や当時のフランスの状況、人々の暮らしについて触れられているので、物語を理解する助けになっています。また、第3巻の『ソグのひとと夏』には、山脇百合子さんのエッセイ「はしばみ

とりんどうの国で -ソグ・おなかいっぱい日記-」が寄せられており、1996年の夏、山脇さんと編集者の総勢6名で訪れたソグの旅の思い出が写真とともに紹介されています。村の人々との交流、美味しい食事、そして見渡す限りの麦畑や牧草地など、ソグの町やその周辺をめぐる、山脇さんの目を通してオリヴィエ少年が過ごした村の様子を知ることができるので、ぜひご一読ください。

この物語は、少年の日常が丁寧に描かれる中、子どもらしい感受性で世界を鋭く見つめ、少しずつ世界を広げていく様子が少年の成長と結びついており、読む人に共感を与えます。重版未定の本ですが、図書館では手に取ることができると思います。ここではあらすじを簡単にご紹介しますので、手に取っていただくきっかけとなれば幸いです。

1 ラバ通りの人びと

1930年代初頭のパリ、モンマルトル。母を亡くし、みなしごになったオリヴィエは、母のいとこ夫婦の元に身を寄せました。貧しさに加え、押し寄せる不況と戦争の気配を感じつつも、ラバ通りに住む人々との交流は少年を温かく、励まします。

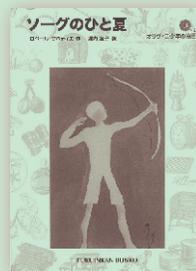


2 三つのミント・キャンディー

ラバ通りを離れ、裕福な伯父夫婦に引き取られたオリヴィエ。新しい家族と新しい暮らしに慣れるため、手さぐりの毎日が続きます。ラバ通りに住む人びとは違う、新たな人たちと出会います。

3 ソグのひとと夏

オリヴィエは、両親の故郷であり、祖父母と叔父が住むソグを訪れます。自然豊かな村での暮らし、心優しい人びと、新しい友だち、そして父母の過去の秘密……。ソグでのひとと夏は、オリヴィエがこの先の未来を考える大切な時間となりました。



作…ロベール・サバティエ
 [1巻]訳…堀内紅子／松本 徹 [2巻・3巻]訳…堀内紅子
 福音館文庫 重版未定